

社会学研究科社会学専攻後期博士課程 3つのポリシー

項目	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
教育目標	慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会学に関する研究者として自立して研究活動を行い、その他の高度に専門的な業務に従事するために必要な卓越した研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うために、深い専門性と広い学際性を備えた学識を培い、国際社会の中で、高い見識を持って第一線で活躍する研究者、及び高度な専門性を備えた職業人を育成することを目標とします。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、博士(社会学)の学位を授与します。
資質・能力目標	<p>資質・能力目標（１）：社会学に関する高度な専門的知識の獲得、および新たな知見を生み出し、公表すること</p> <p>資質・能力目標（２）：質的・量的社会調査に関する高度な調査・分析能力を獲得し、自立して研究を行えるようにすること</p> <p>資質・能力目標（３）：学際的に周辺領域へと接続可能な幅広い知識の高度な運用能力を獲得し、研究コミュニティで連携をとれるようにすること</p> <p>資質・能力目標（４）：将来にわたって社会的、国際的に貢献できる高度な資質を獲得し、実践的にそれを活用できるようにすること</p> <p>資質・能力目標（５）：後進の研究者・高度職業専門人の育成・指導を行うための高度かつ専門的な資質の獲得</p>

項目	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
教育課程の編成	社会学研究科社会学専攻（後期博士課程）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、社会学分野、文化人類学・民俗学分野、コミュニケーション／マスコミュニケーション研究分野、社会心理学分野の４分野から構成される教育課程を体系的に編成します。いずれの分野でも社会学研究科委員を中心としてより高度な講義・演習を行なっています。最新のトピックや関連領域の学問の現在については国内外の著名な研究者、特別招聘教授による講義科目も設定します。
教育課程の実施	この教育課程の編成のもと、講義、文献講読に基づく討論、フィールドワークを組み込んだ研究主題についての実証データと理論との考察などの教育法を組み合わせることで高度な教育を実施します。
学修成果の評価方法	社会学研究科社会学専攻の教育課程により習得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

<p>資質・能力 目標と教育 内容との関 係</p>	<p>資質・能力目標（１）：社会学に関する高度な専門的知識の獲得、および新たな知見を生み出し、公表すること 講義科目では、社会学における各分野における研究動向、知識、方法論に関する高度な専門的知識の獲得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（２）：質的・量的社会調査に関する高度な調査・分析能力を獲得し、自立して研究を行えるようにすること。 研究方法論、及び演習科目では、社会学の各分野の研究遂行に必要な社会調査や文献資料の分析に関する高度な知識及び技能の獲得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（３）：学際的に周辺領域へと接続可能な幅広い知識の運用能力を獲得し、研究コミュニティで連携をとれるようにすること。 4分野の境界を超える学際的な研究を促すよう、科目履修の自由度を高く設定し、各分野の連携による高度な幅広い知識とその運用能力の獲得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（４）：将来にわたって社会的、国際的に貢献できる高度な資質を獲得し、実践的にそれを活用できるようにすること。 各分野における最新のトピックにアクセスする機会を確保するため、国内外の著名な研究者を招いた講義科目を設置し、最新の研究成果発表や討論を通じて社会的、国際的に貢献できる高度な資質・能力の獲得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（５）：後進の研究者・高度職業専門人の育成・指導を行うための高度かつ専門的な資質の獲得 後進の研究者・高度職業専門人を育成・指導するためにふさわしい能力を育成するために、各分野に設置された特殊研究において、研究計画、学術論文、及び研究発表に関するピア・レビューを継続的に行い、後進の適切な指導を行うために必要な高度かつ専門的な能力の獲得を目指します。</p>
--	---

<p>項目</p>	<p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p>
<p>求める学生 像</p>	<p>（１）社会学研究の遂行に必要な高度な専門学力を有する学生 （２）社会学研究に関する明確な課題を有する学生 （３）学術研究の遂行に適した学術的な語学の運用能力を有する学生 （４）研究の遂行にあたり研究倫理を尊重することができる学生 （５）学術研究成果を高度な専門性が求められる職業を通じて広く社会に還元する意欲のある学生</p>

選抜の基本 方針	<p>このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施します。</p> <p>(1) 一般入試</p> <p>研究活動を遂行するに相応しい語学運用能力（英語）を評価するための筆記試験及び社会学に関する専門的な知識を評価する論文審査を一次試験として実施します。（本大学大学院社会学研究科修士課程修了者及び修了見込の者は英語の試験を免除します。）博士課程における研究に関する課題設定、研究計画、研究遂行能力について確認するための口述試験を二次試験として実施します。</p>
-------------	--